北海道看護協会
札幌第３支部

さんSANひろば

Vol.37
2026

Contents

- 看護の日
  健康フェア
- 支部担当研修



看護の日健康フェア

令和8年6月7日（日）、看護の日にちなみ、地域の皆さまの健康づくりをより身近に感じていただき、看護への理解を深めることを目的として、白石区ラソラ札幌B town 1階エスカレーター付近をお借りし、札幌第3支部役員主催で広報委員も参加し「看護の日健康フェア」を開催しました。当日はやや肌寒い気候でしたが、午後に約3時間実施し、多くの方々にご来場いただきました。



会場では、血圧測定やSpO_2測定、認知機能セルフチェッカー、インボディ測定を行い、ご自身の健康状態を気軽に確認していただく機会を提供しました。



また、看護協会のマスコットキャラクター「かんごちゃん」が登場すると、子どもたちや家族連れが次々とブースを訪れ、会場は和やかな雰囲気に包まれました。かんごちゃんとの触れ合いをきっかけに立ち寄ってくださる方も多く、健康について考えるきっかけづくりにつながりました。

人体模型の展示コーナーでは、子どもたちが少し緊張した様子を見せながらも、「心臓はどこにあるの?」「これはなぁに?」など興味津々に観察する姿が見られました。保護者の方と一緒に身体の仕組みについて学ぶ様子もあり、楽しみながら健康や人体への関心を深める機会となりました。



今回の健康フェアを通じて、幅広い世代の地域住民の皆さまと交流し、健康への関心を高めていただくことができたと感じました。今後も地域に寄り添った健康啓発活動を継続し、安心して暮らせる地域づくりに貢献してまいりたいと思います。



札幌第３支部役員と広報委員の皆様、本当にお疲れさまでした。

広報委員　平澤 友香

支部担当研修（北海道委託事業ー看護管理地域別研修）

「看護の本質を見つめ直して実践・指導につなげよう」



令和８年７月31日（金）、白石区の北海道看護協会にて、「看護の本質を見つめ直して実践・指導につなげよう」研修会が開催されました。当日は各方面から来訪され、31名の参加がありました。

研修内容としては、看護の本質とは何か、事例から読み解く看護の考え方など、従事に直結する話題に特化されており、自身の看護観を見直す良い機会となりました。患者様の個別性を尊重し、その人らしい生き方を目指す事は容易ではありません。しかしながら、私たちが援助・介入する事で少しでも目標達成に近づくことが出来るのであれば、看護師冥利に尽きると言えます。「正解は一つではない」と研修で耳にする場面がありました。患者様の心身に対する悩みは多岐にわたります。看護師単独では限界がありますが、コメディカルと協働する事で、ベストな答えにたどり着く事が出来ると考えます。

午後のグループワークでは６チームに分かれ、なぜ看護師を目指したのか、困っている事は何か、看護師として働いて良かった事などを話し合いました。多くの方は小さい頃に体験した入院経験や、介護、それに携わ

る看護師の働き方から影響を受けていました。疾患からの回復だけではなく、最期の時間を看護した経験も重要な糧になっていると言った発表もありました。

今回の研修は概念に関するものでしたが、自身の内面と向き合う良い時間となりました。看護の本質にふれることができ、一旦立ち止まって気持ちをリフレッシュする事も大切と感じました。

講師の方々や第３支部関係者の皆様におかれましては、忙しい中での事前準備だったと思います。お陰様で円滑に研修が進み、参加者にとって大変有意義な時間となりました。来年度も同じ内容で開催できる事を楽しみにしています。お疲れさまでした。

広報委員　細川　大



編集後記

朝夕の風に少しづつ秋の気配を感じる季節となりました。
次号では会員懇談会、看護管理者懇談会、医療安全交流会の取材の様子をお知らせいたします。学びを通して日々の看護に新しい気づきを取り入れていただければ嬉しいです。季節の変わり目、体調を崩されませんようお身体を大切にお過ごしください。
今後もご意見・ご感想お待ちしています。

広報委員長：金澤　一弘